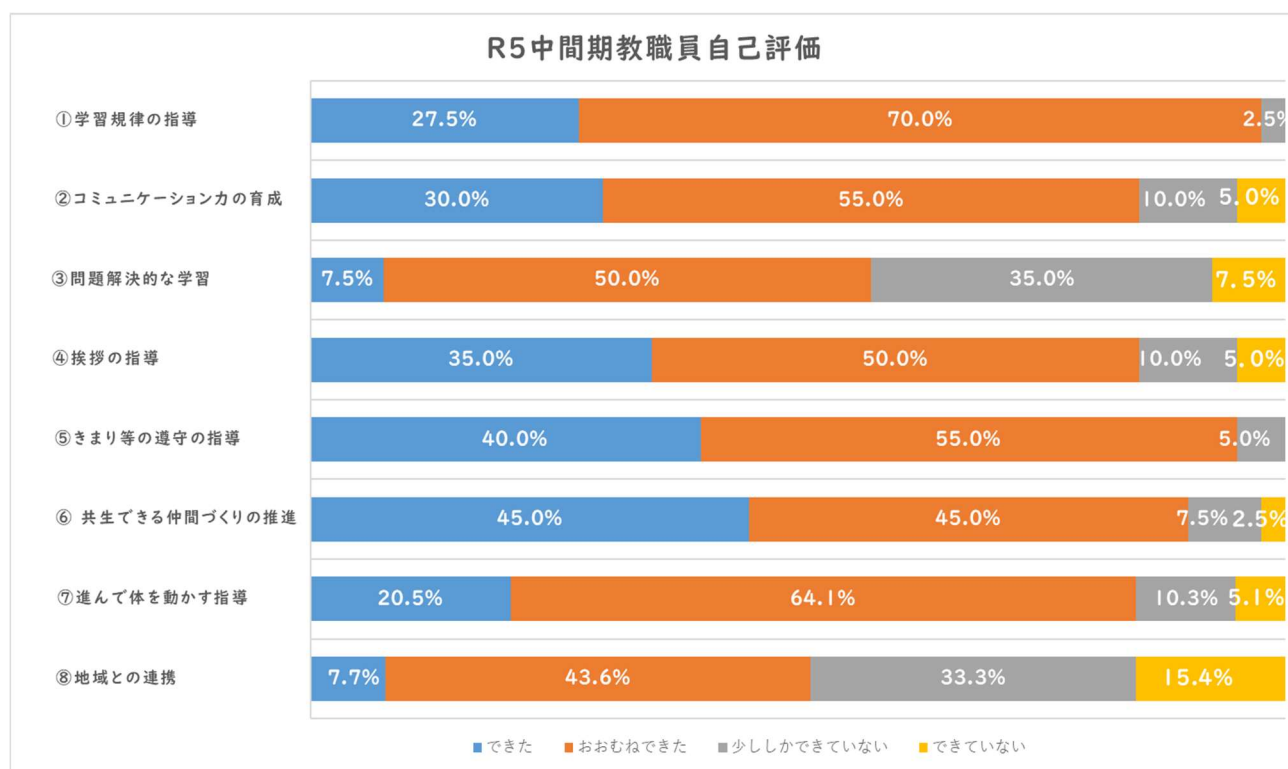


## ＜令和5年度中間期教職員自己評価について＞

本校の本年度の重点課題は、7項目中6項目は昨年度と同様ですが、新たに③の項目について追加しました。各項目は、以下のとおりです。

- 「自ら学び、ともに考え合える子」の育成のために
  - ①学習規律を守り、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
  - ②情報機器等を活用し、学習意欲を高めるとともに、自分の考えをもち、コミュニケーション力を育む指導を行う。
  - ③SDGs学習やESD等、主体的・対話的で深い学びになるような問題解決的な学習に取り組んでいる。
- 「他人を思いやる温かい心をもつ子」の育成のために
  - ④進んで挨拶し、学校のきまりやマナーを守る態度を育成する。
  - ⑤人権意識を高め、自分も相手も尊重して共生できる仲間づくりを行う。
- 「健康でたくましい子」の育成のために
  - ⑥遊びや運動に親しむ態度の育成を図る。
- 「生駒を愛する子」の育成のために
  - ⑦学校・家庭・地域と連携した協働活動を推進する。

以上の内容が網羅されるように教職員の質問項目を精選し、自己評価を行いました（1学期末実施）。以下にその結果を示すとともに、簡単ですがその考察を記します。



**①学習準備を整えさせ、学習規律を守るよう指導する。**

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、97.5%でした。割合としては昨年度より約7ポイント上昇し、本年度も教職員が学習規律を意識して取り組めたことが伺えます。

学習を行うにあたり、まずは、学習規律が大切になってきます。授業の前に学習準備をする、手を挙げて発言するなど、基本的な指導が概ねできていたように思います。学級によっては、子どもたち同士で指名するという姿も見られました。その成果があって、授業中の子どもたちは、静かに落ち着いて学習できている子どもたちが多かったです。来校された方々からも「児童数が多いのに子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいる。」と評価していただいています。2学期以降も引き続き指導していくとともに、多様性のある子どもたちにも配慮していきたいと思います。

#### ②学習意欲を高める工夫をし、自分の考えをもたせたり、話し合い活動をさせたりして、コミュニケーション力を育む。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、85.0%でした。割合としては、昨年度よりも約2ポイント上昇しました。

新型コロナウイルスも5類へと移行し、コミュニケーション力を高めるように子どもたちのグループ学習も活発になりました。コミュニケーション力を育むには、まず自分の意見、考えをもつこと。教職員は、ノートやタブレットを活用して自分の考えをもたせています。本年度も引き続き、国語科を中心とする「書く」活動の研究を進めています。今後もICTを活用して効率的・効果的に学習を進め、学習意欲の向上を図るとともに、コミュニケーション力を育てていきたいと思います。

#### ③SDGs学習やESD等、主体的・対話的で深い学びになるような問題解決的な学習に取り組んでいる。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、57.5%でした。この項目は、新しく追加した項目で、主に本校が推進するSDGs学習やESDについての内容になります。しかし、主体的・対話的で深い学びは、各教科でも実践できますので、その面を評価した数字だと考えられます。⑧の「地域との連携」とも関連しますが、夏期休業中に教職員がESD研修を受講し、すでに2学期の展開を考えていますので、2学期以降、この項目の数値の上昇とともに、その充実にも期待しています。

#### ④友だちや先生、地域の方たちに自分から進んで挨拶できるよう指導する。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、85.0%でした。本校の子どもたちの挨拶は、明るく、元気で、とても良い挨拶をする子が多いです。先生方の指導や、地域の方や家庭でのお声掛けのおかげだと感じています。

特に昨年度、地域学校協働本部の発案で実施したあいさつ運動では、昨年度の6年生がデザインした「あいさつのぼり旗」を持って行っていただきました。その時期は、挨拶する子がかかなり増えたようです。この運動の時期だけでなく、自分から進んで挨拶できる子の輪が、さらに広がっていくことを願っています。そのためには、まず私たち大人が自分から

進んで挨拶できるようにしなければならないと思います。教職員でも挨拶について、さらに取り組んで参りますので、ご家庭や地域でのご協力もお願いします。

**⑤ マナーやモラル、ルールを守って行動することで安心して学校生活を送れるように指導する。**

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、95.0%でした。2年前と比べると約半数の教職員が入れ替わっていますが、生徒指導関係については、年度当初に教職員で共通理解を図り、一貫した指導に当たっています。例えば、廊下を走っている子がいると「歩きましょう」という、いろんな先生方の声がよく聞こえます。最近では、走っている子はまだいるものの、そのスピードは落ちている感じがします。今後も子どもたちが安心して学校生活を送れるように、粘り強く指導していきたいと思います。

**⑥ 安心して学校生活を送れるよう、人権意識を高め、自分も相手も尊重して共生できる仲間づくりを進める。**

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、90.0%でした。割合としては、昨年度よりも約7ポイント上昇しました。

本校では、「相手も自分も大切に育て、互いの違いを認め合い、支え合うなかま集団を育てる」ことを目標に取り組んでいます。全校で「ありがとうの木」に取り組み、朝の会の時間にその内容を全校放送したり、道徳の授業や学校生活全体で、道徳教育や人権教育に取り組んだりしました。また、本年度も子ども同士でトラブルが起こった際には、担任が仲裁に入ったり、学年や他の教職員と連携を図ったりして、早期の解決を図るとともに、継続して子どもたちを見守ってきました。本年度は、人権教育学習の参観を行ったり、ユネスコスクールの国際デーに取り組んだり、さらに充実した取組を行っていく予定です。

**⑦ 業間や業前の遊びや体育の授業を通して、進んで体を動かすよう指導する。**

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、84.6%でした。割合としては、昨年度よりも約13ポイント上昇しました。

新型コロナウイルスも5類へと移行し、マスクを外し、外で元気よく遊ぶ子どもたちの姿も増えてきたように思います。来校された方からは、「こんなに外で元気に遊んでいる子どもたちの姿を見たことがありません。」と、おっしゃっていただいたほどです。本年度も学級遊びで外に出ているクラスもありましたが、外遊びを推奨しようと外で遊ぶ元気な教職員の姿もありました。残念ながら、本校の子どもたちは、昨年度のスポーツテストの結果からほとんどの項目において県平均よりも低いというデータがありますが、しっかりと体を動かしているので、来年度の結果に期待したいと思います。

**⑧ 子どもの学習理解を深めるため、地域に住む方の協力を得るなど、地域との連携を図る。**

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、51.3%でした。割

合としては、昨年度よりも約24ポイント上昇しました。

昨年度までは、この項目に関しては割合が低かったです。新型コロナウイルスの影響もあり、地域の方の協力を得ることがなかなか難しかったことが理由の一つに挙げられましたが、本年度は各学年とも積極的に地域の方に依頼することが増えてきました。2学期以降のカリキュラムでは、さらに地域の方と交流する活動が予定されていますので、ESDとともに充実した教育活動に期待しています。